



DIAPASON

CEO President

Mr. Alessandro Schiaviに訊く

音楽を鳴らすということでは
楽器もスピーカーも同じ。
だから音楽的な感覚を、
スピーカー作りでも重視している

ついで、振動のコントロールということでも Astera はずっと進歩しているのです。木を組み合わせて乾燥させ、それをこのような形に作り上げるのには大変な手間と時間を必要とします。

Astera ではバッフルがさらに前に出た形状になっていますが、これはバッフルでの音の回折を抑えるためですか？

スキアービ そうです。バッフル面での音の回折は音像の定位に影響します。このような形状にすることでコンサートを聴いているような楽器の定位感、音場感が得られるのです。

ディアパソンのコンセプトをもっとも明確に形にしたという Astera ですが、どのような大きさの部屋で使うことを想定していますか？

スキアービ 特に大きな部屋でも狭い部屋でもなく、通常の大きさの部屋でもっとも良い再生ができるように設計しています。

—— 音決めはどんな音源で？

スキアービ 私は以前、EMI などのスタジオで仕事をしていました。その時も私は自分のモニタースピーカーを使っていたのですが、その当時録音に関わった音楽、主にクラシックですが、それを音作りに使っています。

—— スタジオではどんなお仕事ですか？

スキアービ レコーディング・エンジニアです。小さな時にはミュージシャンになりたかったのですが、14歳の時に録音スタジオで働きたいと思うようになりました。

—— 楽器も演奏なさるとか。

スキアービ はい、ピアノです。パイプオルガンの作曲の勉強もしました。

—— そういった音楽の勉強をしたこと、録音スタジオで音楽の制作に携わったことが、スピーカーの製作にも役立つのでしょうか、スキアービ その通りです。いろいろな形で音楽に携わっている中で、自分でスピーカーを作りたいと思うようになったのです。

—— 好きな音楽を納めできる良い音で聴きたいからですね。

スキアービ まさしくその通りです。だからというわけではないのですが、私が作るスピーカーのエンクロージャは楽器の形に非常に似ています。

—— 最新作の Astera を聴いていても楽器的な鳴り方をしていると感じるのですが、そういう狙いはあるのですか？

スキアービ 私たちは音楽的な感覚をスピーカー作りで重視しています。もちろんスピーカーには楽器とは違うところがありますが、音楽を鳴らすということでは共通しています。

—— 新製品として Astera を出されたばかりですが、次はどんなスピーカーを考えておられますか？

スキアービ いろいろなことを進めています。現在開発を進めているのは、ビッグ Astera とも言える、フロアスタンディングで、家庭用としても、少し大きな空間でも鳴らせるスピーカーです。

—— ありがとうございます。

● 問合せ先… ヨシノトレーディング(株)

0500(3375)3975

—— ディアパソンのスピーカーとしては以前日本でも発売されていた、Adamantes を覚えていきます。そのモデルも寄せ木のエンクロージャを使って独特の形状に仕上げていました。寄せ木を使う理由は何ですか？

スキアービ Adamantes は1998年に発売したモデルで、Astera は技術的にも、さらに進化したモデルです。エンクロージャの形に関していえば、通常の四角い形では反響や残響などの悪影響があります。楽器の形を考えてください、四角いものなんかありませんね。そして例えばヴァイオリンを見ると、いろいろな硬さの木が組み合わされています。

Adamantes のエンクロージャは反射音の影響のない、音楽的な表現を持

つエンクロージャとして開発しました。いろいろな材質の木を組み合わせて使用しているのは、材質によって音の響き方が異なり、組み合わせることで響き方を調整できるからです。

この形はデザイン重視ではなく、あくまでもサウンド上の目的から出来たものです。トワイターからの音のバッフル面での反射にしても、バッフルをこのような形状にすることで影響を抑えることができます。

これはウーファーでも同様ですが、Astera の場合はウーファー周囲のバッフルは MDF 材のような均質なのではなく、35mm の枠材を使ってウーファーからのエネルギーをコントロールしています。この部分のバッフルの厚みは15mmあり、初期の Adamantes などと比べればずっと深くな